

演劇と心理学

—スタニスラフスキー・システムによる心身の開発—

主旨 スタニスラフスキーは俳優を育てる独自の教育システムを開発し集大成した。このシステムが日本に紹介されたのは1950年代に遡るが、さまざまな曲解があり、その理論と実践の持つ射程について、未知の領域が残っている。『俳優の仕事』全3部の翻訳を初めて完成させた堀江新二氏らのグループは、本邦で初めてこのシステムにもとづいた演劇学校を設立し、俳優を育てている。スタニスラフスキーは、俳優が舞台上で役を生きること、役と台本に描かれた「人間の精神生活」を作るために、訓練システムを形成していった。身体的行動と筋肉の解放を通して、役の感情と無意識を発見していく方法は単に演劇表現の実践理論ではなく、人が人と十分に交流し、生きるための方法と理論である。舞台は真実の行動が行われる場なのである。ここに心理学、教育学、行動科学との交差領域が拓かれる。このシンポジウムでは、基本的なワークを実際に行いながら、演劇と心理学の交差領域を探りたい。

講師



堀江新二

TCL 大阪 所長、大阪大学名誉教授。ロシア演劇研究の第一人者。スタニスラフスキー・システムの全貌を明らかにした『俳優の仕事』（全3巻）のロシア語からの全訳を出版。日本翻訳出版文化賞を受賞（2010年）。著書に『したたかなロシア演劇』、訳書にチェーホフ『かもめ』『さくらんぼ畑』（桜の園）『スタニスラフスキーとヨーガ』ほか多数。モスクワ・国立シューキン演劇大学俳優科に特別学生として入学（2006～2010年）。



八木延佳

TCL 大阪 教務主任、ドラマティージャー。国立文楽劇場、劇団四季、東宝戯曲研究会をへて、関西学院大学、大阪府立東住吉高校などで演劇の講師を務める。西洋の演技メソッドを学びながら、日本人の身体性や

感情表現にマッチした演技やコミュニケーションのトレーニング法を開発している。応用ドラマ教育研究会事務局長。日本演劇学会、日本演出者協会、日本劇作家協会、日露演劇会議に所属。

日時 2015年10月31日（土）
13:00～18:00

場所 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
B104 教室

プログラム

13:00-13:10 企画主旨及び講師紹介 森岡正芳

13:10-14:10 講義 堀江新二

「スタニスラフスキー・システムの基本的な考え方」

14:30-16:00 実習 八木延佳

「スタニスラフスキー・システムの基本ワーク」

16:20-17:50 総合討論 「スタニスラフスキーと心理学」

主催：神戸大学大学院人間発達環境学研究科・学術 Weeks2015

共催：基盤研究（A）「生活史法を基盤とした臨床物語論の構築と公共化」

HP：<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/aew>

問合せ先：森岡正芳 morioka@crystal.kobe-u.ac.jp